

養豚 再起誓い新ブランド

豊田市内にある三軒の養豚農家が、新しいブランド豚「とよたひまわりポーク」を誕生させた。昨年、県内で相次いだ豚熱(CSF)感染で、被害を受けた農家が再起のきっかけにしようと手を組んだ。地域に根差したブランドに育てようと、市内の小中高校に通う児童生徒を対象に、ロゴマーク案を募集している。

(生津千里)

とよたひまわりポーク

ひまわりポークは、豊田市の花であるヒマワリの種を粉砕したパウダーを、卵に約1%混ぜて飼育する。市内で養豚場を営む「トヨタファーム(塚本町)」、「堀田畜産」(西広瀬町)、「内

山(浄水町)の三社が参加し、八月末から市内のスーパーで販売し始めた。トヨタファームは昨年一月に豚熱感染が確認され、飼育していた約六千頭を全頭殺処分した。堀田畜産と

内山でもそれぞれ数百頭を飼育していたが、豚熱による殺処分や早期出荷で、最近まで操業を一時停止していた。

昨年七月以降、豚熱からの再起を図るトヨタファームの飼柄雄一さん(左)は「ひまわりポークを地域で親しまれるブランドにすることで、「迷惑産業」とされる畜産への見方を察えるきっかけにしたい」と意気込む。

今後、食育の一環として学校などで育てたヒマワリの種を豚に与えたり、豚を給食で提供したりと学校との連携も進めたいという。その足掛かりとして、今回の募集を企画した。

ひまわりポークの販売を引き受ける食肉販売会社「フィードワンフーズ」の西日本事業部(豊田市秋葉町)の加納俊彦さん(左)は「ひまわりポークは手の届きやすい価格帯で提供していく。素直な発想でデザインしてほしい」と話す。

マークの募集は十月三十一日まで。形式を問わず、一人何点でも応募できる。詳細は毎月二十日ごろ、フィードワンフーズのホームページで公開する。採用作品一点と次点作品二点の考案者には、ひまわりポークが贈られる。①フィードワンフーズ 0565



豚熱で打撃 3農家ロゴ案募る

(32) 2661

市やJ.Aあいち豊田でつ

くると市農産物ブランド推進協議会(石川尚人会長)と、レストランを運営する西洋フード・コンパストが、あいち産豚肉消費拡大実行委の協力を得て開催。

十日に店内で開かれた試食会では、太田穂彦市長や石川会長、生産者が十五日に提供予定の豚肉や「野菜のピリ辛トマト和え」を味わった。

トヨタファームの飼柄雄一さんは「豚の脂身の甘みを生かし、味は薄めでおいしい」と太鼓判。太田市長は「コロナ禍で改めて地元目を向けてほしい」と述べ、生産者との今後の連携にも期待を示した。

(服部桃)

豊田味わう特別メニュー

14日から市役所でフェア



地産地消フェアで提供されるメニューを試食する関係者たち。豊田市役所のレストラン「ひまわり」で。